

# 東海テレビ放送

## 事業の名称

Z世代と考える！未来のテレビスクール

## 共同で事業を実施した団体

東海テレビプロダクション（東海テレビの関連会社。テレビ番組制作のほか、CMなどの映像による商品や企業の紹介、自治体や学校関係のイベントやプロモーション関係の企画運営を行っている）

## 事業概要

SNSの浸透でメディア環境が激変する中、大人だけでなく子どももより高いメディアの読み解き能力・リテラシーがより求められるようになりました。そこで、喫緊の課題である子どものメディアリテラシー醸成を目的とした「Z世代と考える！未来のテレビスクール」を開催しました。

小学校でのメディアリテラシーをテーマにした出張授業を展開するとともに、中学生・高校生を対象に、従来の対面形式に加え、メタバースなどを併用したハイブリッド開催で、基調講演やVRカンファレンスを実施。メディアが伝える情報を見極め、理解することの大切さや、SNS時代だからこそ、情報をうまく使いながら身を守る方法を生徒と東海テレビ放送の社員がともに考えました。

## 事業の成果

### ① Z世代と考える！未来のテレビスクール

- ・ 日 時：2023年7月27日（木）13時～16時
- ・ 開催方法：ハイブリッド型（対面および仮想空間などを使用したオンライン）
- ・ 参加校：名古屋国際中学・高等学校  
名古屋市立名東高等学校  
奈良県立国際高等学校
- ・ 基調講演テーマ：「持続可能社会とテレビ」
- ・ VRカンファレンステーマ：「中・高生が考えるテレビの役割とは？  
あなたにとって理想のテレビとは？」

### 【基調講演】

登壇者は伏原健之・東海テレビ報道局統括。東海テレビ放送に入社以来、制作局で情報番組などのディレクターやプロデューサーを経験し、報道部では県警キャップや編集長などを歴任。2003年に『とうちゃんはエジソン』で第41回ギャラクシー賞テレビ部門大賞を受賞するなど、数々のドキュメンタリー作品も手がけてきました。

東海テレビ放送は1960年から公害問題や性的マイノリティなどをテーマとしたドク

ュメンタリーに積極的に取り組み、地域の課題解決の一助となってきました。その事例を紹介し、「ローカル局の使命は地域の人たちの生命と財産を守り、地域の物語を未来へつなぐこと」と語ると、中高生は興味深そうに聞き入りました。



また、若年層のテレビ離れが進む中、「情報が信頼できるメディアは？」というアンケートで、新聞・テレビの信頼度が群を抜いていたという結果を紹介し、テレビ局は、視聴者の期待に応えるために公正で透明性の高い報道姿勢に尽力し、情報を発信する際には、事実確認を徹底するようにしていることなど、テレビ局の報道体制について解説。SNSなどを使って、だれでも発信者になれる現代だからこそ、それぞれのメディアの特性を理解し、正しく情報を読み解くことの大切さを伝えました。

これに対して中高生は「スマホを見たり、メディアがいろいろある中で、必要に応じて、ケースバイケースで使い分けていくことが大切だと思った」「メディアそれぞれの特性を知って、楽しむのがいいと考えた」などと感想を述べていました。

#### 【VRカンファレンス】

東海テレビ放送の社員が4つのグループにそれぞれ1人ずつアドバイザーとして入り、対面と仮想空間「NTT XR Space WEB(DOOR)」のハイブリッドでワークシートに沿って意見交換をしました。



「テレビはCMが長い」などという率直な意見も出る一方、「テレビだとリアルタイムで家族みんなで盛り上がれるのが楽しい」という好意的な意見や「テレビ番組自体は好きだが、中高生は家にいる時間が短いので、電車内でも見られるように、ヘッドフォン型のテレビがあったら便利だと思う」といった未来のテレビの形にも議論が及んでいました。

今回新たな試みとして、メタバースでの会議運営を実施した点については、接続が良くない場面があり改善すべき点もありましたが、「相手の顔が見えず声だけであるため、率直に話しやすい」「アバターを動かすのが新鮮で、楽しく参加できた」などポジティブな意見も多く、未来を担う中高生と楽しくテレビの役割や使命、期待について、ともに考える貴重な機会となりました。

#### ②Z世代に送る！メディアリテラシー出張授業

- ・開催校：名古屋市立葵小学校 2024年1月22日（月）13時30分～14時15分  
南山大学附属小学校 2024年2月28日（木）13時45分～14時30分

- ・対象学年：小学5年生

地元の小学校で、5年生の社会科学習の一環として、テレビ番組の制作過程の紹介や放送の役割、メディアリテラシーの基本を楽しく伝える出張授業を実施。



多くの小学校で1人1台のPCやタブレット端末が支給されるようになり、容易に情報にアクセスできるようになった今、知っておきたい情報の読み解き方やモラルなどもレクチャーし、「SNS時代」を生きる子どもたちが自ら考え、正しい知識を身に付ける機会を提供しました。また、実際のニュース番組で使われた原稿を使用し、アナウンサー体験も実施。楽しみながら、テレビならではの映像を使ったメディアとしての特性や作り手の思い、使命などについても子どもたちに伝えていきました。

参加した生徒からは本事業に対して以下のような意見が寄せられました。

- ・ 普段の授業や教科書では学ぶことができないテレビ局の方々の思いを学ぶことができました。
- ・ テレビで放送される映像の裏にたくさんの方がいることを知りました。これからテレビを見るときは、そのような制作に携わっている人の思いを考えながら見たいと思います。
- ・ みんなの安心安全のために、毎日防災訓練をやっていると聞き、すばらしいなと思います。
- ・ 1月1日の能登半島地震の時に家で休んでいた人も取材に行ったと聞き、すごいなと思いました。
- ・ 放送局には免許状が必要で、信頼できる情報のために、たくさん取材し、確認していることにびっくりしました。
- ・ SNSを見ていると、たくさん情報が流れてきますが、その情報が本当に正しいのか、しっかり見極める力を養っていきたいです。

来年度以降も、小学5年生の社会科の学習に合わせた出張授業を実施し、情報社会に生きる子どもたちにメディアリテラシーや放送の役割などを伝えていきたいです。

以上